

市町村名	那覇市							
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-5	バス停上屋整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3-1(7)-ウ			
担当部署名	建設管理部 道路建設課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人にやさしい交通手段の確保			
事業内容	観光都市としてのグレードアップを図るため、観光客等が沖縄の強烈な日差しや風雨を避け快適に公共交通機関を利用してもらえるよう、バス停上屋を整備する。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	91,698		86,700			
		(b)予算現額	91,698		86,700			
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0		
		(d)繰越額	—	87,133	—	76,292		
		A.計(b+d)	91,698	87,133	86,700	76,292		
	B.執行済額		4,565	86,807	10,408	74,364		
	うち交付金充当額		3,560	69,447	8,326	59,492		
	次年度繰越額		87,133	—	76,292	—		
	執行率(%) (B/A)		5.0%	99.6%	12.0%	97.5%		
予算の状況の説明		・関係機関との調整に時間を要したことから、その大半を次年度に繰越することとなった。 ・繰越額については、計画していた実施設計業務委託や上屋設置工事にて執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	バス停上屋の設置:13基発注	目標	(5基)	(13基)	(13基)	()		
		実績	5基	7基	8基			
達成状況説明	関係機関との調整が整ったバス停8基(真嘉比(上)、県庁南口(下)、天久1丁目(上・下)、おもろまち3丁目(上・下)、おもろまち4丁目(下)、久米孔子廟前)のみの設置となり、当該権利者からの理解を得ることができずに目標を達成することができなかったが、次年度以降の工事でバス停上屋の設置を行う。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
			目標	()	(5基)	(13基)	(13基)	()
	バス停上屋の設置:13基完了	実績		5基	7基	8基		
		進捗状況説明	関係機関との調整が整ったバス停8基(真嘉比(上)、県庁南口(下)、天久1丁目(上・下)、おもろまち3丁目(上・下)、おもろまち4丁目(下)、久米孔子廟前)のみの設置となり、当該権利者からの理解を得ることができずに目標を達成することができなかったが、次年度以降の工事でバス停上屋の設置を行いたい。 なお、着実にバス停上屋の設置が進んでいることから、快適な公共交通機関の利用環境が図られ、観光都市としてのグレードアップに繋がっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・バス停上屋の設置には、設置箇所の歩道幅員がある程度広幅員(上屋の設置後、歩道の有効幅員を2m以上確保する必要がある)でなければならない。 その為、設置予定箇所背後地の権利者から土地の協力(有償譲渡)を得られるかが課題である。	・当該権利者との調整を進める中で、本市の交通政策への取り組みや、本事業(設置)に対する必要性を粘り強く説明し、理解をしっかりと得ることでバス停上屋の設置を実現する。
今後の取り組み方針		
・当該権利者を含めた関係者との調整を密に実施し、本事業の適切な進捗管理を図る。 ・上屋のあるバス停名をPRする等、利用促進を図り、観光客等の利用者満足度向上に繋げていく。 ・沖縄の強烈な日差しや風雨を避け、快適に公共交通機関を利用する観光客や市民のために、バス停上屋の整備は必要である。 これまで、バス停上屋背後地権利者の理解を得ることに時間を要し、進捗が遅れていたが、今後の計画においてはその見通しも立っているため、今後も事業の推進を図る。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		84,772	84,772	67,818
				市町村負担金
				16,954
				交付対象外経費
				0
那覇市 84,772千円 役務費 182千円 委託費 5,572千円 工事請負費 79,018千円 完了検査手数料 (株)沖縄設計センター 5,572千円 安岡建設(株) 10,408千円 安岡建設(株) 400千円 安岡建設(株) 68,210千円 平成27年度 バス停上屋実施設計業務委託(その1) 平成26年度 バス停上屋設置工事(その1) 平成27年度 バス停上屋付帯工事 平成27年度 バス停上屋設置工事(その1)				
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託料の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については不用額326千円(入札残)であり、適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。		

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-6	交流オアシス整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設管理部 道路建設課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光都市としてのグレードアップを図るため、公有地及び道路残地等を活用した小広場、オープンスペース(交流スペース)の整備を行い、観光客と市民との交流・憩いの場を創出する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	82,500		136,620		
		(b)予算現額	82,500		136,620		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	—	80,827	—	109,072	
		A. 計(b+d)	82,500	80,827	136,620	109,072	
	B. 執行済額		1,673	80,827	27,427	90,160	
	うち交付金充当額		1,338	64,662	21,941	72,128	
	次年度繰越額		80,827	—	109,072	—	
	執行率(%) (B/A)		2.0%	100.0%	20.1%	82.7%	
予算の状況の説明		・整備候補地の権利者との調整に不測の日数を要したことから、年度内での事業完了が困難となり繰越すこととなった。 ・繰越額については、交流スペースとして土地購入を目指していたが、地権者の理解を得ることができず、購入に至らなかったため不用が生じ、82.7%の執行率となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	交流スペースの設置:6箇所発注	目標	(策定)	(6箇所)	(6箇所)	()	
		実績	策定の実施	土地購入(5件)	設置(2箇所) 土地購入(3件)		
達成状況説明	当該事業を進める上で、整備箇所の大半が土地購入を伴うため、地権者の理解が得られない限り実施設計および工事ができない。平成26年度は工事箇所と土地購入箇所を合わせて6箇所を予定していた。その内2箇所は前年度に土地購入を終え、設計が完了したことから、工事を実施し、完了した。土地購入については、地権者の理解が得られた箇所が3箇所に留まり、結果的に工事箇所と合わせ合計5箇所の達成状況となっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			目標	()	(策定)	(6箇所)	(6箇所)
	交流スペースの設置:6箇所完了	実績		策定の実施	土地購入(5件)	設置(2箇所) 土地購入(3件)	
		進捗状況説明	3件の土地を購入できたことで、今後、実施設計及び整備工事等まとめて発注する等、円滑に進めることが期待でき、事業の効果を発現することに繋がるものと考えている。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・購入の目処がついた土地については取得を優先して行うことで、後年度の実施設計及び整備工事を計画的に実施することができる。 しかし、交流オアシスの整備には、今後も土地の購入が必要であるため、権利者の理解を早期に得られるかが課題である。	・権利者の理解を早期に得ることが課題であり、権利者との調整を密に行い、他都市の良い事例等を紹介しつつ、本事業の目的を説明して理解を得ていき、用地取得が円滑に行えるように取り組む。 取得した土地については、計画的に優先順位に沿って整備を実施することで、効率的に事業進捗の改善が図られる。
今後の取り組み方針		
・権利者等との調整を密に実施し、本事業の適切な進捗管理を図る。 ・適宜、実施設計及び整備工事を実施し、観光客と市民との交流及び憩いの場づくりが確保できるよう努める。 ・有効活用されていない道路残地等を観光客と市民のために交流・憩いの場として整備することはとても必要である。 ・これまで、地権者の理解を得るために、粘り強く事業の説明を行ってきたことから、今後の施工については円滑に進めていける目処がついてきたところであることを踏まえ、観光客と市民との交流・憩いの場を早めに整備することに留意しながら事業を継続していく。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		117,587	117,587	94,069	23,518	0
那覇市 117,587千円	役務費 1,163千円	→	ニライカナイ・アセット・コンサルティング(株)	214千	平成27年度 交流オアシス整備事業 土地鑑定評価業務(その1の1)	
		→	(株)沖縄不動産総合鑑定所	215千	平成27年度 交流オアシス整備事業 土地鑑定評価業務(その1の2)	
		→	仲程不動産鑑定(株)	86千	交流オアシス整備事業の土地評価に関する意見書について	
		→	BAN鑑定所	86千		
		→	(有)平良不動産鑑定事務所	162千	平成27年度 交流オアシス整備事業 土地鑑定評価業務(その2の1)	
		→	(株)バード不動産鑑定所	227千	平成27年度 交流オアシス整備事業 土	
		→	(株)バード不動産鑑定所	87千円	交流オアシス整備事業の土地評価に関する意見書について	
		→	(有)平良不動産鑑定事務所	86千円		
	委託料 16,794千円	→	(株)沖縄計画機構	7,765千円	平成26年度 交流オアシス整備事業 設計デザインコンセプト作成業務委託	
		→	公益社団法人 沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会	303千	平成27年度 牧志壺屋西線用地測量業務委託	
		→	公益社団法人 沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会	302千	平成27年度 壺屋牧志線用地測量業務委託	
		→	(株)トロピカル・グリーン設計	8,424千円	平成27年度 交流オアシス設計業務委	
	工事請負費 25,672千円	→	(株)沖縄庭芸	25,672千円	平成27年度 崎山松川線外1路線交流オアシス整備工事	
	土地購入費 73,958千円	→	個人4名	73,958千円	交流オアシス整備事業に必要な用地購入	
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○委託料・工事費の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	那覇市						
平成 2 6 年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-7	歴史散歩道整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ	
担当部課名	建設管理部 道路建設課		事業実施（予定）年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ－1－（1）	
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、歴史的な由来のある散歩道を調査選定し、路面改良、道路緑化・美化を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	249,607		224,607		
		(b) 予算現額	249,607		204,273		
		(c) 増減額（b-a）	0	0	▲ 20,334	0	
		(d) 繰越額	—	204,448	—	200,237	
		A. 計（b+d）	249,607	204,448	204,273	200,237	
	B. 執行済額		45,158	177,021	4,007	175,455	
	うち交付金充当額		36,126	141,617	3,206	140,363	
	次年度繰越額		204,448	—	200,237	—	
	執行率（％）（B/A）		18.1%	86.6%	2.0%	87.6%	
予算の状況の説明		・整備工事については、地元自治会との調整により繰越をしての執行となったが、繰越年度内で執行を終えることができ、整備を完了させられた。不用額については、当初予定していた休憩スペースの地権者の理解を得ることができず、用地取得できなかったため、取りやめたことによる不用額である。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	歴史散歩道設置：2地区発注	目 標	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）	（ ）	
		実 績	4地区	4地区	2地区		
	達成状況説明	首里城と識名園を結ぶ宿道（赤平当蔵、繁多川）において、歴史散歩道に相応しい整備として、植栽等による緑陰の確保や快適な歩行空間の確保が図られ目標は達成となった。					
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	歴史散歩道設置：2地区完了	目 標	（ ）	（ 4地区 ）	（ 4地区 ）	（ 2地区 ）	（ ）
		実 績		4地区	4地区	2地区	
	進捗状況説明	首里城と識名園を結ぶ宿道（赤平当蔵、繁多川）において、歴史散歩道に相応しい整備として、植栽等による緑陰の確保や快適な歩行空間の確保が図られ目標は達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・整備路線の整備の実施設計において、地域の方々(自治会等)との意見交換等、関係機関との調整に不測の時間を要する。 ・歴史散歩道には、個々の歴史を感じてもらうために案内板等を設けた休憩スペース(ポケットパーク)を設置する必要がある場合があり、そのための用地購入が必要となる場合がある。 ・土地購入に当たり、権利者との調整に不測の時間を要する。	・自治会等、地域の方々との意見交換は必要であり、意見交換会の進め方等、創意工夫を行い事業の進捗向上を図る。 ・土地の購入にあたっては、本事業の目的等をしっかりと説明し、粘り強く権利者との調整にあたり、用地の確保に努める。
今後の取り組み方針		
・自治会等、関係者との調整を密に行い、本事業の適切な進捗管理を図る。 ・必要な用地については、権利者との調整を粘り強く行い、用地の確保を図る。 ・完成した路線については、ホームページ等による案内を行い、散歩道の利用促進を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>179,462</td><td>179,462</td><td>143,569</td><td>35,893</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	179,462	179,462	143,569	35,893	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
179,462	179,462	143,569	35,893	0										
那覇市 179,462千円	事務費 79千円	旅費												
	委託費 13,824千円	(有)沖橋エンジニアリング	7,614千円	平成26年度 歴史散歩道実施設計業務委託(その2)										
		(株)あすも建設コンサルタント	6,210千円	平成26年度 歴史散歩道実施設計業務委託(その3)										
	工事請負費 165,559千円	(株)大進建設	3,928千円	平成26年度 歴史散歩道整備工事(上間三原線その1)										
		(株)北盛建設	50,058千円	平成27年度 赤平当蔵線歴史散歩道整備工事										
		(株)沖縄総建	90,396千円	平成27年度 歴史散歩道整備工事(上間三原線その2)										
		(株)武村石材建設	21,177千円	平成27年度 歴史散歩道整備工事(牧志・壺屋地内)										
資金の 使途の 点検 評価	評価	点検項目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託料・工事費の執行にあたっては、一般競争入札方式等により業者を選定しており、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については不用品(土地購入費)が生じたものの、権利者調整に不測の時間を要し、実施に至らなかったものであり、適正な規模であったと考えている。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目及び使途の事業目的については、予算執行伺及び工事完了検査等において確認しており、適正であったと考えている。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	那覇市						
平成 2 6 年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-8 亜熱帯庭園都市の道路美化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(2)－ウ		
担当部署名	建設管理部 道路管理課		事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ－1－(1)	
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、幹線市道や観光地周辺市道の街路樹の緑化や美化を推進する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	25年度（繰越）	26年度	26年度（繰越）	27年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,100	—	36,000	—	
		(b) 予算現額	131,500	—	36,000	—	
		(c) 増減額（b-a）	127,400	—	0	—	
		(d) 繰越額	—	69,556	—	15,205	
		A. 計（b+d）	131,500	69,556	36,000	15,205	
	B. 執行済額		61,944	69,556	20,697	15,205	
	うち交付金充当額		49,555	55,644	16,557	12,164	
	次年度繰越額		69,556	0	15,205	0	
	執行率（％）（B/A）		47.1%	100.0%	57.5%	100.0%	
予算の状況の説明		剪定、除草及び設計業務は、年度内で執行することができた。植栽工事については、天久安里線の植栽設計等に時間を要したため、繰越を余儀なくされた。残予算は繰越により執行した。					
活動目標（指標） 及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	幹線道路及び観光地周辺市道の除草（街路樹の剪定、植樹、発注路線数）の発注	目 標	（ 剪定 1350本 植樹480本 ）	（ 剪定 1350本 植樹 180本 ）	（ 4路線 植樹 15本 ）	（ ）	
		実 績	剪定 1361本 植樹 538本	剪定 1831本 植樹 231本	12路線 植樹 0本		
	幹線道路及び観光地周辺市道の植栽工事（天久安里線）の発注	目 標	（ ）	（ 植栽 2600㎡ ）	（ 植栽 800㎡ ）	（ ）	
		実 績		植栽 830㎡	植栽 820㎡		
達成状況説明	交付金対象路線の内、26年度は12路線の剪定を実施し、目標路線数を上回ることが出来た。街路樹の植樹（補植）については、天久安里線の整備推進を優先的に考えて、整備箇所を見直したため、目標数を達成することができなかった。天久安里線植栽工事の植栽面積については、重点的に取り組んだため、目標植栽面積を上回り達成することが出来た。						
成果目標（指標） 及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	幹線道路及び観光地周辺市道の除草（街路樹の剪定、植樹、発注路線数）の完了	目 標	（ 0本 ）	（ 剪定1350本 植樹480本 ）	（ 剪定1350本 植樹180本 ）	（ 4路線 植樹15本 ）	（ ）
		実 績		剪定1361本 植樹538本	剪定1831本 植樹231本	12路線 植樹 0本	
	幹線道路及び観光地周辺市道の植栽工事（天久安里線）の完了	目 標	（ 0本 ）	（ ）	（植栽2600㎡）	（植栽800㎡）	（ ）
		実 績			植栽 830㎡	植栽 820㎡	
	進捗状況説明	幹線道路及び観光地周辺市道において、街路樹の剪定、除草及び街路樹の植樹（補植）を計画的に実施することによって観光都市としての景観、美観形成が施されて、主要路線のイメージアップにつながった。また、他の路線を整備するときのモデル地区とすべく、整備箇所を見直して、優先的に天久安里線の植栽工事に集中し実施したことから、当該路線については目標以上に緑化することができ、同路線の整備効果を促進することができた。植樹については、上記の見直しに伴い、目標の達成には至らなかったが、事業目的自体は達成できたものと考えている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・事業1年目において、観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、市内の主要幹線市道の街路樹の統一的な剪定手法を定めた「那覇市亜熱帯庭園都市街路樹管理ガイドブック」を作成した。 ・事業開始より3年経過し、施工者や市民等に対しても徐々に認知度も上がってきていると感じているが、本事業によって整備したモデル路線の整備効果を発現させることにより、当該ガイドブックをより広く周知させていくことが課題である。 ・県内で樹木が不足気味なこともあり、繰越にならないように市が候補樹種としている樹種の確保が課題である。	・剪定施工者に「剪定計画書」を事前に提出させ、剪定イメージを共有した状態で実施できるよう、更なる周知を徹底する。地域住民への周知や説明の際はイメージ図等を利用する。 ・圃場の状況は、毎年、変化するのでこれまで同様に沖縄県苗組合等の関係団体等と情報共有に努めたい。
今後の取り組み方針		
これまで同様に、街路樹の剪定、植樹については、台風による影響を最小限に抑えるため適切な時期に剪定、植樹が実施できるように進める。また、「那覇市亜熱帯庭園都市街路樹管理ガイドブック」について、徐々に認知度も上がってきていると感じているが、継続して施工者の施工計画書の作成時において、当該ガイドブックの周知を図り、理解力高め、業務効率化や技術的な向上が図れるよう努める。繰越を避けるため、できるだけ早期に沖縄県苗組合等の関係団体等へ本市の発注状況等を提供することで情報共有・交換に努め、早期に樹木が確保できるよう努める。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		35,902	35,902	28,721
				市町村負担金
				7,181
				交付対象外経費
				0
那覇市 35,902千円 委託料 11,402千円 工事費 24,500千円 有限会社西原農園 8,000千円 株式会社トピカルグリーン設計 3,402千円 有限会社西原農園 23,994千円 金秀グリーン株式会社 506千円 平成26年度街路樹美化業務委託 平成26年度街路樹植樹樹設計業務委託 平成26年度天久安里線植栽工事(その2) 平成26年度泊36号外1路線植栽工事				
資金の流 点検・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は指名又は一般競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模について、不用額は入札差額の98千円であり、適正な規模であったと考えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-9 亜熱帯庭園都市の公園美化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	建設管理部 公園管理課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、観光地周辺公園の緑化と美化、遊具・トイレ等の整備を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	135,700		50,000		
		(b) 予算現額	221,097		50,000		
		(c) 増減額 (b-a)	85,397	0	0	0	
		(d) 繰越額	-	120,388		16,392	
		A. 計 (b+d)	221,097	120,388	50,000	16,392	
	B. 執行済額		100,709	120,388	33,608	14,755	
	うち交付金充当額		80,567	96,310	26,886	11,804	
	次年度繰越額		120,388		16,392		
	執行率 (%) (B/A)		45.5%	100.0%	67.2%	90%	
予算の状況の説明		調整のため実施設計業務に不測の日数を要したため工事費にかかる16,392千円を27年度に繰越し、1,637千円を入れ差額の不用額として出したが、目標の委託、工事を計画どおり実施、達成した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・観光地周辺公園のトイレ整備:3棟発注 ・トイレ等の清掃:10公園発注 ・樹木の剪定:6公園発注	目 標	(2棟70本225本)	(トイレ設計 トイレ整備 トイレ清掃)	(トイレ整備工事3棟、 トイレ等の清掃:10公園、 樹木の剪定:6公園実施)	()	
		実 績	2棟70本225本	4棟 4棟 23棟	トイレ整備工事3棟、 トイレ等の清掃:10公園、 樹木の剪定:6公園実施		
達成状況説明	・平成26年度に、トイレ整備3棟の建築工事、設備工事、植栽整備工事を実施した。 ・平成26年度に、トイレ等の清掃を10公園実施した。 ・平成26年度に、樹木の剪定6公園を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・観光地周辺公園のトイレ整備:3棟完了 ・トイレ等の清掃:10公園完了 ・樹木の剪定:6公園完了	目 標	()	(2棟70本225本)	(4棟4棟23棟)	(トイレ整備:3棟 トイレ等清掃:10公園 樹木剪定:6公園実施)	()
		実 績		2棟70本225本	4棟4棟23棟	トイレ整備:3棟 トイレ等清掃:10公園 樹木剪定:6公園完了	
	進捗状況説明	平成27年度4月末でトイレ3棟の整備及びトイレ等清掃10公園、樹木剪定6公園が完了し、平成27年5月から供用が開始され、安心・安全な公衆便所として運営されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・設計施工を同一年度内に実施するのは適正工期を確保できない恐れがある。 ・建設工事の需要増で技術者の確保が困難なため入札不調が発生した。 ・各公園には常駐する管理人がいないため、利用者満足度の測定が困難である。	・設計業務を先行して行い工事施工を設計年度以降に行うことで適正工期の確保を行う。 ・現場代理人等の複数工事兼任を認めることで施工業者の技術者不足による入札辞退を減少させる。 ・公園利用者の満足度を業務委託により調査する。
今後の取り組み方針		
・観光地周辺公園の美化と緑化、トイレ等整備の効果測定を目的とした公園利用者の満足度調査を実施し計画の見直しを行いたい。 【今後の予定】 ・平成27年度:波の上ピーチシャワー棟整備工事等 ・平成28年度以降:(与儀公園便所整備工事、他4公園)		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		48,363	48,363	38,690	9,673	

那覇市
48,363千円

委託費
13,336千円

工事請負費
35,027千円

(有)中央環境サービス公社
10,152千円

合同会社 アトリEAXIS
2,698千円

株式会社 沖縄総研
486千円

星南建設株式会社
173千円

(有)東江ポンプ
5,083千円

㈱RPM
10,443千円

(資)明光電気
5,292千円

(株)城建
6,415千円

(有)日向工業
330千円

(有)豊造園
6,000千円

㈱D・C・R
1,291千円

平成26年度公園トイレ清掃業務委託

平成26年度旭ヶ丘公園他1公園便所等設計業務

平成26年度新都心公園植栽設計業務

平成26年度牧志公園便所整備工事(建築)

平成26年度牧志公園便所整備工事(設備)

平成26年度松山公園便所整備工事(建築)

平成26年度松山公園便所整備工事(設備)

平成26年度漫湖公園便所整備工事(建築)

平成26年度漫湖公園便所整備工事(設備)

平成26年度新都心公園植栽整備工事

平成27年度旭ヶ丘公園整備工事(建築)

資金 使途 の流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・各業種ごとに競争入札による契約を実施しているので妥当と判断。 ・積算基準に基づいた積算を行っており適正と判断する。 ・委託料、工事費のみを計上しており適正と判断。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-14	桜の名所づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部署名	建設管理部 花とみどり課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、平成24年年度実施の桜の育成環境調査に基づき、那覇、首里、真和志、小禄地域に桜の名所となる公園を整備する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度(繰越)	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	—	12,000	5,000	—	
		(b)予算現額	—	7,000	5,000	—	
		(c)増減額(b-a)	—	▲ 5,000	0	—	
		(d)繰越額	4,725	—	0	5,000	
		A. 計(b+d)	4,725	7,000	5,000	5,000	
	B. 執行済額		4,725	7,000	0	5,000	
	うち交付金充当額		3,780	5,600	0	4,000	
	次年度繰越額		0	0	5,000	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	
予算の状況の説明		平成26年12月に実施した一般競争入札が不調となり、設計を見直す必要が生じたため、工事スケジュールに遅れが生じることとなったため、H27年度へ事業を繰越し実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	桜の植栽本数(約40本発注)	目標	(桜の育成環境の調査)	(桜の植栽120本)	(桜の植栽40本)	()	
		実績	桜の育成環境の調査	桜の植栽120本	桜の植栽12本		
達成状況説明	昨年度に引き続き寒川緑地に桜を植栽する計画であるが、訪れた観光客等が桜を觀賞しやすいよう、植樹した桜の周辺環境整備を行う必要があったため、桜の植栽本数が目標を下回った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	桜の植栽本数(約40本完了)	目標	()	(桜の育成環境の調査)	(桜の植栽120本)	(桜の植栽40本)	()
		実績		桜の育成環境の調査	桜の植栽120本	桜の植栽12本	
	全体計画のうち、整備率20.0%進捗させる。	目標	()	()	()	(20%)	()
		実績				7%	
	進捗状況説明	昨年度に引き続き寒川緑地に桜を植栽する計画であるが、訪れた観光客等が桜を觀賞しやすいよう、植樹した桜の周辺環境整備を行う必要があったため、桜の植栽本数が12本となり整備率が7%にとどまった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	首里地域の寒川緑地は観光地である首里城につながる道中にあり、桜の名所として整備することで観光振興に寄与することができる緑地として位置付けている。 平成25年度より寒川緑地に桜の植栽を行っているが、現場において桜の周辺の整備を優先的に行ったため、今年度の桜の植栽本数が当初の目標値を下回る12本(予定整備率20%のうち7%)となっている。	全体植栽本数177本のうち平成26年度までに132本の桜の植栽を終え全体進捗率は75%となっており、平成29年度事業完了に向け次年度以降の桜の植栽本数を増やす必要がある。また効果的な桜の見せ方や情報発信方法等を検証し来訪者が満足できるよう改善を図る。
今後の取り組み方針		
桜の植栽本数を増やし完了予定年度の平成29年度における目標達成を目指す。また、植栽した桜が開花するには数年かかるため、開花した際には、来園者等への満足度調査等を実施し、事業効果を把握し今後の事業の進め方に反映させる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
	総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
	5,000	5,000	4,000	1,000
				交付対象 外経費
				0
那覇市 5,000千円 → 工事請負費 5,000千円 → 末吉園(株) 5,000千円 〔平成26年度桜の名所づくり 整備工事(植栽)〕				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者は、地方自治法施工令167条の2第1項第8号に基づき選定を行ったため、妥当であったと考える。 ○当初予定していなかった周辺環境整備等を行ったため目標値を下回った。当初の予算規模を現況を確認し考慮する必要があった。 ○費用・使途については、事業目的に即し真に必要なものかなど、契約一件書類等において確認を行っており、適正であった。	
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	那覇市							
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-39	首里金城町無電柱化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	建設管理部 道路建設課		事業実施(予定)年度	平成25~31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
						Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光地における電線類を地中化し、道路上から電柱を無くすことにより、観光地の景観を向上させる。また、観光地における快適な歩行空間を作ることによって観光資源としての地域づくりをさらに推進する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	—	59,459			
		(b) 予算現額	5,000	—	10,500			
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	-48,959	0		
		(d) 繰越額	—	3,500		6,773		
		A. 計 (b+d)	5,000	3,500	10,500	6,773		
	B. 執行済額		1,500	3,500	3,727	0		
	うち交付金充当額		1,200	2,800	2,981	0		
	次年度繰越額		3,500		6,773	0		
	執行率 (%) (B/A)		30.0%	100.0%	35.5%	0%		
予算の状況の説明		年度当初においては詳細設計や移設補償費の経費を含めて計上していたところ、地上機器設置予定箇所の土地所有者の内諾が得られなかったことにより取組の縮小を図ることとし、年度内において48,959千円の予算減額を行った。 また、予定していた詳細設計についても、地上機器設置予定箇所の土地所有者の内諾が得られなかったため実施することができず、平成27年度へ6,773千円を繰り越すこととなった。 その後、交渉を続けたが、合意に至らなかったため、繰越予算を執行することが出来なかった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)			達成状況				
				26年度	27年度	28年度	29年度	
	電線類等移設費補償:2路線	目標	(2路線)	()	()	()	()	
		実績	0路線					
達成状況説明	道路管理者の行う電線共同溝の概略設計及び電線管理者の行う配線計画(概略)に係る補償は実施したが、地上機器設置の土地所有者の内諾が得られなかったことにより、その後に実施予定だった詳細設計や配線計画(詳細)に係る補償を執行することが出来なかった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)			基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	電線類等移設補償実施:2路線	目標	()	(2路線)	()	()	()	
		実績		0路線				
	進捗状況説明	当初目標としていた電線管理者への電線類等移設補償について、地上機器設置の土地所有者の内諾が得られなかったことにより、その後に予定していた詳細設計等が出来ず、電線類等の移設を実施することが出来なかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・電線類を地中化するための特殊部の設置位置について、当該地域が傾斜地であることや狭隘道路に囲まれているため、制約が多く設置場所が限られてくること。 ・地上機器を設置するために、必要な民有地を購入する必要があるが、土地所有者から理解が得られず、詳細設計が進まない状況がある。	・土地所有者の要望等に考慮した、地上機器設置位置や形状、配線計画詳細を検討する必要がある。 ・無電柱化の重要性について、自治会等にも協力して頂き、理解を得る必要がある。
今後の取り組み方針		
これまでの取り組みで検討していた設置予定箇所について、配線計画を見直し地上機器の設置位置や規模を見直す形で設置箇所を集約化し、用地を取得する箇所を減らすことで、地上機器設置予定箇所の土地所有者へ理解を頂き、当該地区の景観の向上及び安全で快適な通行空間確保に取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,727</td><td>3,727</td><td>2,981</td><td>746</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,727	3,727	2,981	746	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,727	3,727	2,981	746	0										
那覇市 3,727千円 委託費 1,422千円 アート技研(株) 1,422千円 〔首里金城地区細街路電線共同溝設計業務委託〕 補償費 2,305千円 沖縄電力(株) 1,172千円 〔平成26年度 配線計画作成業務に係る補償契約〕 西日本電信電話(株) 1,133千円 〔平成26年度 配線計画作成業務に係る補償契約〕														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 使途の 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託料の執行に当たっては、適切な額であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、適正な規模であったと考えているが、不用額があったことについては、執行計画の検討が必要である。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について事業目的については、予算執行及び完了検査等において確認しており、適正であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。												

市町村名	那覇市								
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名	1-40	歴史散歩道関連整備事業(下水道マンホール等設置)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ			
担当部課名	上下水道局 下水道課	事業実施(予定)年度	平成25~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備				
					Ⅲ-1-(1)				
事業内容	観光都市としての景観・美観の創出・継承のため、快適に観光散策ができるよう風景になじんだ下水道マンホール蓋等を設置する。								
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()								
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度		
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	41,000	57,000	—				
		(b) 予算現額	41,000	57,000	—				
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0				
		(d) 繰越額	—	—	42,445				
		A. 計 (b+d)	41,000	57,000	42,445				
	B. 執行済額		41,000	14,555	41,504				
	うち交付金充当額		32,800	11,644	33,203				
	次年度繰越額		—	42,445	—				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	25.5%	97.8%				
予算の状況の説明		連携して実施している他事業において地域住民との調整に時間を要しことにより、繰越が必要となったため、本事業も道路整備と進捗を合わせる必要があることから、平成27年度へ42.44千円を繰り越しての執行となった。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)			達成状況					
				25年度	26年度	27年度	28年度		
	下水道マンホール蓋等の発注	目 標	(165箇所)	(227箇所)	()	()			
		実 績	194箇所	240箇所					
達成状況説明	歴史散歩道公共下水道工事を8件(内繰越4件)発注し、デザインマンホール蓋設置等を240箇所施工した。当初予定していた道路整備箇所において、付近住民との調整等により整備範囲の変更があり、それに伴い対象マンホール等箇所数が増となった。								
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)			基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)	
				目 標	()	(165箇所)	(227箇所)	()	()
	下水道マンホール蓋等の設置				実 績	194箇所	240箇所		
		進捗状況説明			史散歩道公共下水道工事を8件(内繰越4件)発注し、デザインマンホール蓋設置等を240箇所施工した。当初予定していた道路整備箇所において、付近住民との調整等により整備範囲の変更があり、それに伴い対象マンホール等箇所数が増となった。 道路建設課の歴史散歩道整備事業と合わせて、景観等に配慮したデザインマンホール蓋等を整備することにより、歴史散歩道にふさわしい歩行空間の確保が図られた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・施工管理や工事期間の短縮などの観点からも、道路建設課の歴史散歩道整備事業と一体的な施工が必要であり、本事業の発注スケジュールが道路事業の影響を受けた。 ・景観等に配慮したデザインマンホール蓋等を設置するため、地域の方々(自治会等)との意見交換等、関係機関との調整に不測の時間を要することがある。	・道路建設課発注スケジュール等詳細な把握が必要となる。 ・関係機関や地域の方々との意見交換は必要であり、意見交換会の進め方等、創意工夫を行い事業の進捗向上を図る必要がある。
今後の取り組み方針 ・道路建設課の道路整備事業と密な調整を行ない、道路工事の施行内容や施行範囲、道路計画高さ等について把握すると共に、デザインマンホール蓋製作スケジュールも照らし合わせつつ、適切に事業を執行する。 ・蓋の塗装について、道路整備事業の舗装形態に合わせた材質を使用することにより、より歴史散歩道にふさわしい景観と安全性の向上を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		56,062	56,059	44,847	11,212	3

那覇市
56,059千円

工事請負費
56,059千円

有限会社 名徳工務店
186千円

株式会社 沖縄総建
6,487千円

株式会社 沖栄建設
324千円

有限会社 大進建設
7,558千円

〔単独費合併(交付対象外経費) 2千円〕

株式会社 北盛建設
9,310千円

株式会社 沖縄総建
7,538千円

株式会社 野原建設
10,044千円

株式会社 富士盛建設
14,612千円

〔単独費合併(交付対象外経費) 1千円〕

〔平成26年度歴史散歩道公共下水道工事(その1)
デザインマンホール蓋設置等 1箇所〕

〔平成26年度歴史散歩道公共下水道工事(その2)
デザインマンホール蓋設置等 29箇所〕

〔平成26年度歴史散歩道公共下水道工事(その3)
デザインマンホール蓋設置等 2箇所〕

〔平成26年度歴史散歩道公共下水道工事(その4)
デザインマンホール蓋設置等 34箇所〕

〔平成27年度歴史散歩道公共下水道工事(その1)
デザインマンホール蓋設置等 46箇所〕

〔平成27年度歴史散歩道公共下水道工事(その2)
デザインマンホール蓋設置等 34箇所〕

〔平成27年度歴史散歩道公共下水道工事(その3)
デザインマンホール蓋設置等 43箇所〕

〔平成27年度歴史散歩道公共下水道工事(その4)
デザインマンホール蓋設置等 51箇所〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○道路工事請負業者に施工(随意契約)させることにより、経費の削減、円滑な施工による工期の短縮、瑕疵責任の不明瞭化防止等があることから、妥当であったと考えている。しかしながら、一部の工事については道路工事の発注が不調により遅れたことから、先行して発注する必要性が生じたため一般競争入札により契約を行った。 ○予算規模については、道路整備箇所の変更から下水道マンホール蓋等の設置個数が増加したが、必要かつ最小限での執行に抑え、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要かつ適正であり、支出等に関する手続き及び書類も適切に処理している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市						
平成 2 6 年度 (繰越) 沖縄振興特別推進交付金事業 (市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-43	亜熱帯庭園都市の公園魅力向上・活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設管理部 公園管理課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光地としての沖縄・那覇の地域素材を活かした魅力ある公園とするために、前年度に作成した企画書(案)を基に実施計画を作成する。また、観光客を主体に年間10万人近い来園者を有する福州園に、園の施設を紹介する映像コンテンツの作成及びガイドシステムを設置する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,600	44,042	-		
		(b) 予算現額	7,600	44,042	-		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	-		40,400		
		A. 計 (b+d)	7,600	44,042	40,400		
	B. 執行済額		7,434	3,642	40,400		
	うち交付金充当額		5,947	2,913	32,320		
	次年度繰越額		0	40,400	-		
	執行率 (%) (B/A)		97.8%	8.3%	100.0%		
予算の状況の説明		調整のため実施設計業務に不測の日数を要したため工事費にかかる40,400千円を平成27年度に繰り越したが、年度内に工事施工を実施し、全額執行し完了した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	①公園活性化に向けた実施計画の作成(公園の選定、実施施策の検討)	目 標	公園活性化に向けた実施計画の策定	()	()	()	()
		実 績	①公園活性化に向けた実施計画作成の実施				
	②福州園案内システムの実施設計・工事施工	目 標	(②福州園案内システムの整備)	()	()	()	()
		実 績	②福州園案内システム整備工事の実施設計・工事施工の実施				
達成状況説明	①公園活性化に向けた実施計画の作成を実施した。②福州園案内システム整備工事の実施設計業務と工事施工を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(30年度)
	①活性化に向けた実施計画を取りまとめる。	目 標	()	(①活性化に向けた実施計画の取りまとめの完了。)	()	()	()
		実 績		①活性化に向けた実施計画の取りまとめの完了。			
	②福州園案内システム整備工事設計業務: 1件 福州園案内システム整備工事: 1件 全体計画の進捗率: 100%	目 標	()	(②福州園案内システム整備工事設計業務1件及び福州園案内システム整備工事1件の完了。)	()	()	()
		実 績		②福州園案内システム整備工事設計業務1件及び福州園案内システム整備工事1件の完了			
	進捗状況説明	①活性化に向けた実施計画をとりまとめの完了。②福州園案内システム整備工事の設計業務及び福州園案内システム整備工事の完了。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初設計においては、外国人利用者に対して、英語、中国語、韓国語の園内ガイド表示をする仕様であったが、世界のウチナンチュ大会開催時にスペイン語圏からの多数来沖されることからスペイン語等での案内を追加の仕様変更と工期延長を余儀なくされた。	更なる外構人観光客の利便性向上のため、統計等での3カ国圏以外の音声、字幕での施設案内表示の多言語化を検討する必要がでてきた。
今後の取り組み方針		
案内システムの外国人観光客向け映像コンテンツ表示の更なる多言語化(音声、字幕等)の追加が可能か検討するよう取り組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
44,042	44,042	35,233	8,809	0


```

graph LR
    A[那覇市  
44,042千円] --> B[委託費  
3,642千円]
    A --> C[工事請負費  
40,400千円]
    B --> D[株式会社 国建  
3,188千円]
    B --> E[有限会社 麻建築設備設計  
454千円]
    C --> F[大協電気工事株式会社  
40,400千円]
    D --- G[（那覇市内都市公園活性化実施計画作成業務）]
    E --- H[（平成26年度福州園案内システム設計業務）]
    F --- I[（平成27年度 福州園案内システム設置工事）]
  
```

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-55	那覇港起点港機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	経済波及効果の大きい那覇港発着のクルーズ船を誘致するため、那覇港クルーズターミナルに起点港として必要なチェックインカウンター、X線装置、荷物運搬用具等を整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,000	—			
		(b)予算現額	15,000	—			
		(c)増減額(b-a)	—	—			
		(d)繰越額	—	8,687			
		A.計(b+d)	15,000	8,687			
	B.執行済額		6,313	8,047			
	うち交付金充当額		5,050	6,438			
	次年度繰越額		8,687	—			
	執行率(%) (B/A)		42.1%	92.6%			
予算の状況の説明		・可動式通路の規格や材質、耐風条件等の仕様の検討において、利用者である船社及び船舶代理店との調整に時間を要したことから、年度内の完了が困難となり繰越となった。 ・平成26年度予算においては、関係者と密に調整した結果、当初予算額よりも低い事業費で執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度				
	クルーズ船起点港機能の整備	目標	(起点港機能の整備実施)	()	()	()	
		実績	起点港機能の整備実施				
達成状況説明	チェックインカウンター、手荷物検査用のX線装置等については平成26年度内で整備したが、可動式通路については仕様の検討段階において利用者である船社及び船舶代理店との調整に時間を要し、平成27年6月に供用開始した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	クルーズ船起点港機能の整備完了 ①チェックインカウンター ②X線装置 ③荷物運搬用具 ④可動式通路	目標	()	(-)	(-)	①～④の整備完了	()
		実績		-	-	①～④を整備完了した	
	【参考指標】 沖縄21世紀ビジョン実施計画P181 那覇港の年間旅客数	目標	59万人(23年)	90万人(28年)	98万人(33年)	()	()
		実績	67万人(25年)	83万人(26年)	105万人(27年)		
	進捗状況説明	可動式通路については仕様の検討段階において利用者である船社及び船舶代理店との調整に時間を要し、平成27年6月に供用開始したが、チェックインカウンター、手荷物検査用のX線装置等については目標通り平成26年度内で整備した。 那覇港の年間旅行客数については、平成33年の目標であった年間98万人について、前倒しで達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	可動式通路の設置や移動および撤去方法を関係者が理解し、効率的かつ適切に稼働できるよう、事前に訓練を行い、供用開始後の活用時において混乱等が発生しないようにする必要があった。	可動式通路納入時において関係者に対し、設置、移動及び撤去方法の講習、教育等を行い、効率よく使用するように図った。
今後の取り組み方針		
当該事業は既に完了しているが、類似した事業においては、関係者へ充実した講習及び徹底した教育等を行うことにより、供用開始時に混乱等がないように取り組むことが重要である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
14,360	14,360	11,488	2,872	0

那覇市
14,360千円

補助金
14,360千円

那覇港管理
組合
14,360千円

工事費
2,220千円

備品購入費
11,404千円

消耗品購入費
205千円

委託料
531千円

(株)大修建設
2,220千円

(合)東洋安全機材
84千円

(株)航空総合研究所
8,074千円

(株)ジムキ文明堂
557千円

(株)沖縄日立
2,689千円

(株)マルゼン
205千円

(株)松田・伸設計
531千円

起点港機能強化事業
雨除け対策工事

起点港機能強化事業
保安用バリケード

起点港機能強化事業
連絡通路作成及び設置業務

起点港機能強化事業
物品購入

起点港機能強化事業
手荷物検査装置購入

起点港機能強化事業
消耗品購入

起点港機能強化事業
雨除け対策工事設計・監理

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・一般競争入札の最低価格業者と契約を結んでいることから、支出先の選定方法は妥当であると考ええる。 ・設計時において複数の工法から最も経済的な工法を選択していることから、予算規模は事業内容に見合っていると考える。 ・費目、使途については、関連書類を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-6	第3次那覇市水産業振興基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
担当部課名	経済観光部 商工農水課	事業実施(予定)年度	平成25~26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備	
事業内容	本市の水産業振興を図るため、昨年度に実施した本市水産業に関する基礎調査を踏まえ、水産業振興基本計画を策定する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,571	-			
		(b)予算現額	7,571	-			
		(c)増減額(b-a)	-	0			
		(d)繰越額	-	7,463			
		A. 計(b+d)	7,571	7,463			
	B. 執行済額		82	7,097			
	うち交付金充当額		65	5,678			
	次年度繰越額		7,463	-			
	執行率(%) (B/A)		1.1%	95%			
予算の状況の説明		基本計画策定にあたり「那覇市水産業振興整備対策協議会」を設置し審議するとともに策定作業を支援する業務をコンサルに依頼し進めたが、本市水産業の拠点である泊魚市場の糸満市への移転計画が県で計画されており、県及び関係機関の調整に時間を割くこととなった。結果として平成26年度中の策定が見込めないと判断し、予算を平成27年度に繰り越した。					
活動目標(指標)及び達成状況			達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	基本計画の検討	目 標	(基本計画の検討)	()	()	()	
		実 績	基本計画の検討				
達成状況説明	那覇市水産業振興基本計画策定にあたり審議会等を次の日程で進めた。 ①基本計画策定支援業務委託:平成26年8月28日 ②那覇市水産業振興整備対策協議会開催 第1回:平成27年3月16日 第2回:平成27年7月31日 第3回:平成27年9月1日 第4回:平成27年10月16日 ③基本計画策定に係る協議会からの答申:平成27年10月16日 ④業務完了(基本計画策定):平成27年10月30日						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	本水産業振興基本計画を策定することにより、本市水産業の短・中・長期の課題を整理しとりまとめる。	目 標	()	中長期の課題のとりまとめ	()	()	()
		実 績		中長期の課題を取りまとめた			
	進捗状況説明	当該事業は平成27年10月30日に完了した。水産業振興基本計画に基づき、漁業従事者の育成、老朽化した漁港設備等の環境改善、食生活の多様化による水産物消費の低下など、解決すべき課題をとりまとめることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初計画では平成26年度中の策定を目指していたが、県で本市水産業の拠点となる泊魚市場の移転計画方針が示されたことから、県や関係機関との調整に時間を要し次年度に繰り越した。	当初計画より業務が大幅に遅れてしまったが、今後、事業実施に際しては事業関係者とこれまで以上に緊密に意思疎通を図るとともに、不測の事故が発生しても契約期間の延長がないよう余裕を持った契約を行う。
今後の取り組み方針		
那覇市水産業振興基本計画を作成し事業を完了した。今後は本計画を活用し、本市の水産業の主要課題として挙げられた7つの項目、①漁業関連施設の環境整備、②水産物の安定供給、③漁業者支援の充実、④水産物の消費拡大、⑤水産物の高付加価値化、⑥水産業の多角的展開、⑦漁業の担い手・人材の確保について、課題の改善を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>7,179</td><td>7,179</td><td>5,743</td><td>1,436</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,179	7,179	5,743	1,436	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,179	7,179	5,743	1,436	0										
那覇市 7,179千円 報酬 167千円 協議会委員 10名 167千円 〔那覇市水産業振興対策協議会 委員報酬〕 旅費 57千円 協議会委員 10名 57千円 〔那覇市水産業振興対策協議会 費用弁償〕 委託費 6,955千円 株式会社 国建 6,955千円 〔第3次那覇市水産業振興基本計画策定 業務委託〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託業者選定はプロポーザル方式で行なったが、業務の内容から妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については、見積書を精査し適正な規模であったと考えている。										
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-7	那覇市IT創造館基盤整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-エ	
担当部署名	経済観光部 商工農水課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	情報通信基盤の整備		
					Ⅲ-1-(7)		
事業内容	本市の情報通信関連産業の振興のため、中心拠点であるIT創造館の環境整備をし、利用者の利便性向上を図る。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	19,974	—			
		(b)予算現額	39,243	0			
		(c)増減額(b-a)	19,269	0			
		(d)繰越額	0	38,604			
		A.計(b+d)	39,243	38,604			
	B.執行済額		639	35,152			
	うち交付金充当額		511	28,121			
	次年度繰越額		38,604	0			
	執行率(%) (B/A)		1.6%	91.1%			
予算の状況の説明		実施設計業者の調査により建物外壁に漏水箇所が発見されたため追加工事費用として19,269千円を12月補正で増額した。追加工事により工期日数を要するため工事請負費にかかる38,604千円を27年度に繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	那覇市IT創造館の基盤整備に係る実施設計、基盤整備工事の実施	目標	(実施設計、基盤整備工事の実施)				
		実績	実施設計の実施 基盤整備工事の実施				
達成状況説明	平成26年度に実施設計を実施し、繰り越して翌年度に基盤整備工事として防水工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(27年度)
	那覇市IT創造館企業入居率90%以上	目標	()	(90%)	()	()	()
		実績		88%			
	進捗状況説明	2階から5階までの13箇所において大雨による雨漏り被害の確認がされており、入居企業が有する情報通信機器に障害が生じるおそれがあったが、工事完了後は雨漏り被害は確認されておらず、入居企業やIT研修室等一般利用者に対し安心して利用に供する施設に整備された。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	情報通信関連産業は他の産業と比較し距離や時間の制約を超えた企業活動が展開でき、付加価値が高い商品の開発も可能であり、地方展開の可能性が極めて高い産業である。こうしたことから、本市では情報通信関連産業をリーディング産業と位置づけ、情報通信関連産業の振興を目的とした創業支援施設として那覇市IT創造館を平成15年に設置しているが、経年劣化による損傷が激しいことから施設の基盤整備が必要とされる。 当初全17室中、入居率を90%以上を目標としていたが、27年度は指定管理者の任期満了に伴う市への業務引き継ぎにより、中途退去があっても指定管理者による入居公募及び審査ができなかったことから、空室の期間が生じたため入居率は、88%にとどまった。入居企業の増加による市内の産業振興を図るためにも、今後、おきなわSmart Hub構想(平成25年度策定)、沖縄県アジア経済戦略構想(平成27年度策定)に基づく県の施策(沖縄IT産業戦略センターの設置、大容量国際海底ケーブルの敷設等)と連携した施策展開が急務となっている。	当初計画していなかった工事が、実施設計により発見され、工事が追加されたことで、費用の追加、工期の延長が生じてしまった。今後、事業実施に際しては、事業計画の策定前に施設全体の経年劣化の状態の調査等、事業実施中に計画にはない追加工事が生じないようにしたい。 また、おきなわSmart Hub構想で掲げる平成33年度における県内情報通信産業の生産額5800億円、立地企業総数790社、新規進出企業数440社、総雇用者数55,000人、新規雇用者数42,000人の目標到達に資する事業として、今後、本市が担うべき方は、更なる企業支援、雇用創出に向けた那覇市IT創造館を有効活用し、入居スペースの増設等の施設整備が必要であると考えられる。
県では、地域特性として首都圏などの企業データ&システムのバックアップ拠点として、データセンター関連ビジネスが展開されている。首都圏とアジアを結ぶ中間に位置する沖縄の地理的条件を活かし、高速大容量通信回線の接続を整備することでアジアへの高速送信ニーズの高い映像コンテンツ、アプリやゲーム開発など、高度な技術をもった情報通信関連企業の立地が期待されているものと認識している。 今後も、県を中心に県内の情報通信産業の更なる高度化・多様化が進んでいくものと考えられ、本市も同産業を担う人材の雇用、育成に加え、経済成長著しいアジア諸国における情報通信市場と国内市場の双方方向に対し、付加価値を提供する中長期の施策展開が必要であると考えられる。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		35,791	35,791	28,632
				市町村負担金
				7,159
				交付対象外経費
				0
那覇市 35,791千円	設計工事等委託料 637千円	→	拓建建築造設計 637千円	(那覇市IT創造館基盤整備工事建築設計業務委託)
	使用料及び賃借料 16千円	→	沖縄県ハイヤー・タクシー協会 16千円	(工事現場への交通費)
	工事請負費 35,138千円	→	株式会社新生実業 35,138千円	(那覇市IT創造館基盤整備工事)
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価、 費用	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○実施設計委託の業者選定は指名競争入札、工事請負はの業者選定は一般競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算執行率は91.1%であり、適正な規模であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者となる入居企業は、創業間もない企業であることから、市による基盤整備は妥当であると考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途について事業目的達成の観点から、真に必要なものに限定されていると考えている。

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-8	「那覇市中心市街地活性化ビジョン・基本計画」(仮称)策定事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ		
担当部署名	経済観光部　なはまちなか振興課	事業実施 (予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と 商業の振興		
					Ⅲ-1-(7)		
事業内容	中心市街地商店街の活性化を図ることを目的に、これからの未来像・計画をまとめた「那覇市中心市街地活性化ビジョン・基本計画」(仮称)を策定する。						
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,000	9,502			
		(b) 予算現額	5,000	13,508			
		(c) 増減額 (b-a)	0	4,006			
		(d) 繰越額			12,583		
		A. 計 (b+d)	5,000	13,508	12,583		
	B. 執行済額		4,946	326	12,146		
	うち交付金充当額		3,956	260	9,717		
	次年度繰越額		0	12,583			
	執行率(%) (B/A)		98.9%	2.4%	96.5%		
予算の状況の説明		基本計画を策定するにあたり、当初予定していなかった中心市街地が抱える困難な課題の解決策の議論に時間を要することとなり、併せて、審議会の開催数を増やし答申が遅れることにより、H26年度中の完了が困難となったためH27年度に繰り越し、H27年度に計画の策定が完了した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	基本計画の検討(中心市街地の範囲等)	目 標	(基礎調査実施)	(審議会開催 8回)	()	()	
		実 績	基礎調査完了	審議会開催 6回			
達成 状況 説明	【H26年度、H27年度の活動状況】 ・那覇市中心市街地活性化委員会(審議会):H26年度2回、H27年度4回 ・那覇市中心市街地活性化推進本部会議:H26年度5回、H27年度6回 ・那覇市中心市街地の活性化に関する基本計画検討委員会幹事会:H26年度6回、H27年度2回 ・市民ワークショップH26年度5回 ・事業関係者等ヒアリング15回 ・パブリックコメントH27年度1回 ・那覇市議会全員協議会:H27年度1回						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	中心市街地活性化委員会(審議会)を開催し、那覇市中心市街地活性化の目標・事業計画等について取りまとめ、計画を策定する。	目 標	()	(計画策定)			()
		実 績		計画策定完了			
	進捗 状況 説明	平成26年度2回、平成27年度4回の中心市街地活性化委員会(審議会)により、中心市街地活性化のための指針となる計画を策定した。今後は、計画を実現するための施策を展開していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成11年に「那覇市中心市街地活性化基本計画」を策定して以来、社会経済情勢や中心市街地を取り巻く環境が大きく変化していることから、中心市街地が抱える課題を整理し、活性化の方向性を示すため新たな基本計画を策定する必要がある。 中心市街地は、老朽化した建物や狭隘道路が多く、人口減少や少子高齢化、商業活動の衰退などの課題を抱えている。これらの課題を整理すると、子育て世代を中心とした『人口減少』と地元客の中心商店街離れによる『来街者の減少』という2つの大きな課題(重点課題)が導き出される。	中心商店街の課題が相互に密接に関連していることから、各分野ごとに取り組むのではなく、連携して取り組むことが重要。よって、行政、市民、事業者等の事業主体についても連携して、着実な効果の実現を目指していく。
今後の取り組み方針		
H27年度に計画策定完了。 今後は基本計画の進捗管理を行う。 今後中心市街地が発展するためには、貴重な歴史や文化を継承・活用しながら、重点課題を解決すべく新たな取り組みを推進し、誰もが『暮らしたい・来たい』と思えるまちにする必要がある。『県都にふさわしい活力あるまち』を将来像に定め、施策展開の柱として「市街地の整備改善」「商業の活性化」「まちなか居住の推進」「都市福祉施設の整備」「交通環境の整備促進」を設定した。 活性化事業は事業を実施してからその効果が発現するまでに長期間を要し、短期間での検証・評価が難しいことから、庁内検討組織が定期的に施策・事業の進捗管理を行う。また、付属機関である那覇市中心市街地活性化委員会が必要に応じて検証・評価を行い、その検証・評価を基に、庁内組織が改善策について検討する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		12,472	12,472	9,977
				市町村負担金
				2,495
				交付対象外経費
				0
那覇市 12,472千円 報酬 393千円 旅費 255千円 需用費 10千円 委託料 11,814千円 那覇市中心市街地活性化委員会(393千円) (審議会開催に係る委員報酬) 那覇市中心市街地活性化委員会(136千円) (審議会開催に係る委員の費用弁償) 市職員2名/先進行政視察(富山市・金沢市)(119千円) (普通旅費) 那覇市中心市街地活性化委員会(10千円) (審議会開催に需用費) ランドブレイン株式会社(11,814千円) (那覇市中心市街地の活性化に関する基本計画策定支援業務委託)				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○プロポーザル方式により公募し、審査委員会にて優先交渉権者を決定、随意契約に至っており、適切な手順を経て選定している。 ○H26年度中は計画策定完了に至らず、委託内容にも修正があったため増額補正を行ったが、繰越分の執行率は96.5%となった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要かつ適正である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-1	ガントリークレーン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(4)-ア	
担当部署名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24~26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(3)	
事業内容	那覇港において、利便性の高い港湾の整備・拡充を実施し、国際物流拠点の形成に必要な港湾機能の強化を図るため、ガントリークレーンを増設する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	330,000	—	—	—	
		(b)予算現額	368,250	—	187,650	—	
		(c)増減額(b-a)	38,250	—	—	—	
		(d)繰越額	—	128,845	—	46,165	
		A. 計(b+d)	368,250	128,845	187,650	46,165	
	B. 執行済額		239,405	128,845	141,485	41,796	
	うち交付金充当額		191,524	103,076	113,188	33,436	
	次年度繰越額		128,845	—	46,165	—	
	執行率(%) (B/A)		65.0%	100.0%	75.4%	90.5%	
予算の状況の説明		・特注品であるガントリークレーンの製作工事において、平成26年度初めの天候不良による資材搬入の遅れ及び夏季における台風や大雨による現場作業等の遅れにより納期が遅延したため、年度内での完了が困難となり繰越となった。 ・平成26年度予算においては、関係者と密に調整した結果、当初予算額よりも低い事業費で執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	那覇港のガントリークレーン4号機製作1基	目標	仕様書作成、3号機製作工事着手	3号機製作・据付(1基、4号機製作工事着手	4号機製作・据付1基	()	
		実績	仕様書作成、3号機製作工事完了	3号機製作1基、4号機製作工事着手	4号機製作・H27年4月据付完了		
達成状況説明	ガントリークレーン4号機については、平成26年度初めの天候不良による資材搬入の遅れ及び夏季における台風や大雨による現場作業等の遅れにより納期が遅延した。しかし、3号機を製作した業者が4号機製作も受注したことから、現場状況を熟知しており製作工期の短縮を図られ、平成27年4月に輸送据付が完了したため、ほぼ計画通りに進捗した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	コンテナ取扱能力増大等に向けた港湾機能強化 ガントリークレーン4号機製作1基	目標	(-)	仕様書作成、3号機製作工事着手	3号機製作完了、4号機製作工事着手	4号機製作1基	()
		実績		仕様書作成、3号機製作工事完了	3号機製作完了、4号機製作工事着手	4号機製作1基	
	【参考指標】 沖縄21世紀ビジョン実施計画P162 那覇港の取扱貨物量	目標	1,004万トン(23年)	1,950万トン(28年)	2,840万トン(33年)	()	()
		実績	1,021万トン(25年)	1,032万トン(26年)	1,096万トン(27年)		
	進捗状況説明	・成果目標通り4号機製作1基を完了することができた。 ・ガントリークレーン整備は順調に目標を達成してきており、施策の推進(沖縄21世紀ビジョン実施計画(平成27年4月)P162那覇港の取扱貨物量)において、貨物増加量に係る整備を実施しており、目標達成に寄与するものである。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ガントリークレーン4号機整備においては、平成26年度初めの天候不良による資材搬入の遅れ及び夏季における台風や大雨による現場作業等の遅れにより、当初予定していた事業期間より若干延びた。	関係機関との情報共有、密な調整及び毎週1回程度の工程会議等を行い、徹底した工程管理を行った。
今後の取り組み方針		
当該事業は既に完了しているが、類似した事業においては、関係機関との情報共有及び密な調整を行い、スケジュールに想定外の事項が生じないか入念に確認し、作業状況及び現場状況等の把握に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>183,281</td><td>183,281</td><td>146,624</td><td>36,657</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	183,281	183,281	146,624	36,657	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
183,281	183,281	146,624	36,657	0										
<pre> graph LR A[那覇市 183,281千円] -- 補助金 183,281千円 --> B[那覇港管理組合 183,281千円] B -- 委託料 3,366千円 --> C[社団法人 港湾荷役機械システム協会 3,366千円] B -- 工事費 179,915千円 --> D[三井造船(株) 179,915千円] C --- E["(ガントリークレーン製作・据付工事管理業務委託)"] D --- F["(ガントリークレーン製作・据付工事)"] </pre>														
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・一般競争入札の最低価格業者と契約を結んでいることから、支出先の選定方法は妥当であると考える。 ・設計時において複数の工法から最も経済的な工法を選択していることから、予算規模は事業内容に見合っていると考える。 ・費目、使途については、関連書類を確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-2	那覇港総合物流センター整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(4)-ア	
担当部課名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成 Ⅲ-1-(3)	
事業内容	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、従来型物流の高度化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため那覇港総合物流センターを整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,000	—	33,930	—	
		(b)予算現額	15,000	—	33,930	—	
		(c)増減額(b-a)	0	—	0	—	
		(d)繰越額	—	11,655	—	24,330	
		A. 計(b+d)	15,000	11,655	33,930	24,330	
	B. 執行済額		3,345	11,655	9,600	24,247	
	うち交付金充当額		2,676	9,324	7,680	19,397	
	次年度繰越額		11,655	—	24,330	—	
	執行率(%) (B/A)		22.3%	100.0%	28.3%	99.7%	
予算の状況の説明		・実施設計において、建物仕様決定の重要な要素となる入居が想定される企業(関係者)へのヒアリング等に不測の時間を要したことから、年度内の完了が困難となったため繰越となった。 ・平成26年度予算においては、関係者と密に調整した結果、当初予算額よりも低い事業費で執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度			
	総物流センター実施設計の実施	目標	(基本設計の実施)	(実施設計の実施)	()	()	
		実績	基本設計の実施	実施設計の実施			
達成状況説明	・活動目標通り総物流センターの実施設計を実施した。 ・実施設計を行ったことにより詳細な仕様、構造等を検討することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	総物流センターの実施設計業務の完了	目標	()	(-)	(基本設計業務の完了)	(実施設計業務の完了)	()
		実績		-	基本設計業務の完了	実施設計業務の完了	
	【参考指標】 沖縄21世紀ビジョン実施計画P162 那覇港の取扱貨物量	目標	1,004万トン(23年)	1,950万トン(28年)	2,840万トン(33年)	()	()
		実績	1,021万トン(25年)	1,032万トン(26年)	1,096万トン(27年)		
	進捗状況説明	実施設計において、建物仕様決定の重要な要素となる入居が想定される企業(関係者)へのヒアリング等に不測の時間を要したため、事業進捗がやや遅れているが、入居予定者の細かなニーズを取り入れることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・実施設計の遅れにより、建築工事の着手にも遅れが生じた。 ・建設地が海上の埋立地で軟弱地盤であること、更に支持層が70mと深く、杭工事の施工及び工程管理に細心の注意を要する。	・実施計画の遅れを取り戻すため、建築工事の早期着手に向けた検討が必要である。 ・早期の実施設計完了、基礎工事の早期発注及び早期着手を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・実施設計の一部を完了し、先行して発注を行える地盤改良工事については、早期発注を行い工事の進捗を図る。 ・杭打機等の施工機械を建設現場に多く投入することにより、工事の進捗を図り工期の短縮を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>33,847</td><td>33,847</td><td>27,077</td><td>6,770</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	33,847	33,847	27,077	6,770	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
33,847	33,847	27,077	6,770	0										
那覇市 33,847千円 補助金 33,847千円 那覇港管理 組合 33,847千円 委託料 33,847千円 (株)ワールド設計・八千代エンジニアリング(株) 33,847千円 物流センター実施設計業務委託														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・一般競争入札の最低価格業者と契約を結んでいることから、支出先の選定方法は妥当であると考える。 ・設計時において複数の工法から最も経済的な工法を選択していることから、予算規模は事業内容に見合っていると考える。 ・費目、使途については、関連書類を確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-27	壺屋小学校屋外トイレ地域景観づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	生涯学習部 施設課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学校活動上での児童による利用や壺屋地域や国際通りでのイベント等においての地域住民による利用など、幅広く利用頻度の高い施設であるため、屋外トイレを壺屋地域の景観に沿った外観に整備する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,840	—			
		(b)予算現額	10,840	—			
		(c)増減額(b-a)	0	—			
		(d)繰越額	—	10,262			
		A. 計(b+d)	10,840	10,262			
	B. 執行済額		578	10,089			
	うち交付金充当額		462	8,071			
	次年度繰越額		10,262	—			
	執行率(%) (B/A)		5.3%	98.3%			
予算の状況の説明		・平成26年度は実施設計を行い、工事を一般競争入札に付したが不調となり工事費及び委託料(工事監理)を繰り越した。 ・173千円は入札残による不用額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	壺屋小学校の屋外トイレの整備発注	目標	(発注)	()	()	()	
		実績	発注完了				
達成状況説明	・平成27年8月に再入札に付したが、再度不調のため、地方自治法167条の2第1校第8号の規定を適用し予定価格の範囲内で随意契約を締結した。 ・工事は年度内に完成した。 ・事業達成率100%						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	壺屋小学校の屋外トイレの整備完了	目標	()	(整備完了)	()		()
		実績		整備完了			
	進捗状況説明	平成28年2月には共用開始され、地域や学校のイベント活動に利用されている。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） ・当該小学校の運動場は国際通りや壺屋地域でイベントが実施される際に活用されてきたが、身障者に対応した屋外トイレが敷地内になく身障者対応のトイレ設置が要望されていた。	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） ・学校行事等における児童生徒の利用のみならず、国際通りや壺屋地域でイベントが実施される際においても地域住民、観光客がトイレを利用できるように、学校敷地内に身障者対応の屋外トイレを設置した。
	今後の取り組み方針 ・那覇市の国際通りで行われるイベント等で有効活用してもらえるように務める。	

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象 事業費	交付金	市町村	交付対象 外経費
		充当額	負担金	
10,667	10,667	8,533	2,134	0

```

graph LR
    A[那覇市  
10,667千円] --> B[委託費  
1,070千円]
    A --> C[使用料  
7千円]
    A --> D[工事請負費  
9,590千円]
    B --> E["(有)アトリエノア  
497千円  
492千円"]
    B --> F["沖縄住宅地盤(株)  
38千円"]
    B --> G["(株)南西環境研究所  
43千円"]
    C --> H["一社)沖縄県  
ハイヤータクシー協会  
7千円"]
    D --> I["(株)沖縄建材  
9,590千円"]
    
```

The flowchart illustrates the distribution of 10,667 thousand yen from Naha City. The funds are divided into three main categories: Commission Fees (1,070 thousand yen), Usage Fees (7 thousand yen), and Construction Fees (9,590 thousand yen). These are further allocated to specific contractors and service providers, with detailed descriptions of their roles provided in brackets.

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-10	新文化芸術発信拠点施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ	
担当部課名	市民文化部 文化振興課	事業実施(予定)年度	平成24～32年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の整備	
						Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄振興に資する文化発信拠点を整備するため、本市の新しい文化芸術発信拠点施設建設に向けた周辺環境整備計画策定、敷地調査を実施する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)
	予算の状況	(a)当初予算額	8,274	13,391	—	87,286	—
		(b)予算現額	8,289	27,151	—	31,349	—
		(c)増減額(b-a)	15	13,760	—	▲55,937	—
		(d)繰越額		—	23,760		21,070
		A. 計(b+d)	8,289	27,151	23,760	31,349	21,070
	B. 執行済額		7,907	2,966	23,760	6,683	21,070
	うち交付金充当額		6,326	2,373	19,008	5,346	16,856
	次年度繰越額		0	23,760	—	21,070	—
	執行率(%) (B/A)		95.4%	10.9%	100.0%	21.3%	100.0%
予算の状況の説明		施設の基本設計に先立ち、建設予定地の周辺環境整備計画を策定する必要が生じたことから、基本設計業務を次年度以降に行うこととし、周辺環境整備計画策定業務を行った。周辺環境整備計画策定業務については、業務内容や進め方について地元自治会などの調整に日数を要したことなどから、平成27年度に繰り越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	周辺環境整備計画の策定	目標	(周辺環境整備計画策定)	()			
		実績	周辺環境整備計画策定				
		敷地測量調査及び地質調査業務の実施	目標	(敷地調査)	()		()
			実績	敷地調査			
	達成状況説明	・周辺環境整備計画の策定については、市民ワークショップや市民・事業者を対象としたアンケート調査等を行い、地区の現況と課題等を整理し、整備計画を策定した。 ・敷地調査等については、建設予定地において敷地測量及び土質調査を実施した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度
基本設計の発注に向けて、施設建設による周辺環境への影響を把握する		目標	()	(周辺環境整備計画策定)	()	()	()
		実績		周辺環境整備計画策定			
基本設計の発注に必要な敷地情報を把握する		目標	()	(敷地調査)	()	()	()
		実績		敷地調査			
進捗状況説明		・施設建設による周辺環境への影響を把握するとともに、周辺環境の整備指針となる周辺環境整備計画を策定した。 ・建設予定地において、基本設計の発注に必要な敷地情報が得られた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・周辺環境整備計画では、建設予定地周辺における住居と商業が共存するためのルールづくり、歩行環境の向上、車両交通の円滑化などの課題解決に向けた実現化方策が示された。 ・沖縄振興に資する文化芸術発信拠点施設を整備するために適切な機能を備えた基本設計に取り組む。	・周辺環境整備計画では、課題に対応した実現化方策案が示されているが、所管が複数部署に渡るため、関係部署と連携を密にして取り組む。 ・敷地測量調査等で得られた敷地の現況や特徴等に留意するとともに、周辺環境整備計画の実現化方策等を十分に踏まえた上で施設の基本設計に取り組む。
今後の取り組み方針		
・周辺環境整備計画に示された課題解決に向けた実現化方策については、各担当部署で検討を進めるとともに、今後は、沖縄の振興に資する施設の基本設計に取り組む。 ・周辺環境へ配慮するとともに、施設の機能が十分に発揮できるように、敷地拡大に向けた補償物件調査業務や補償技術支援業務等を実施する。		

今後の取り組み方針

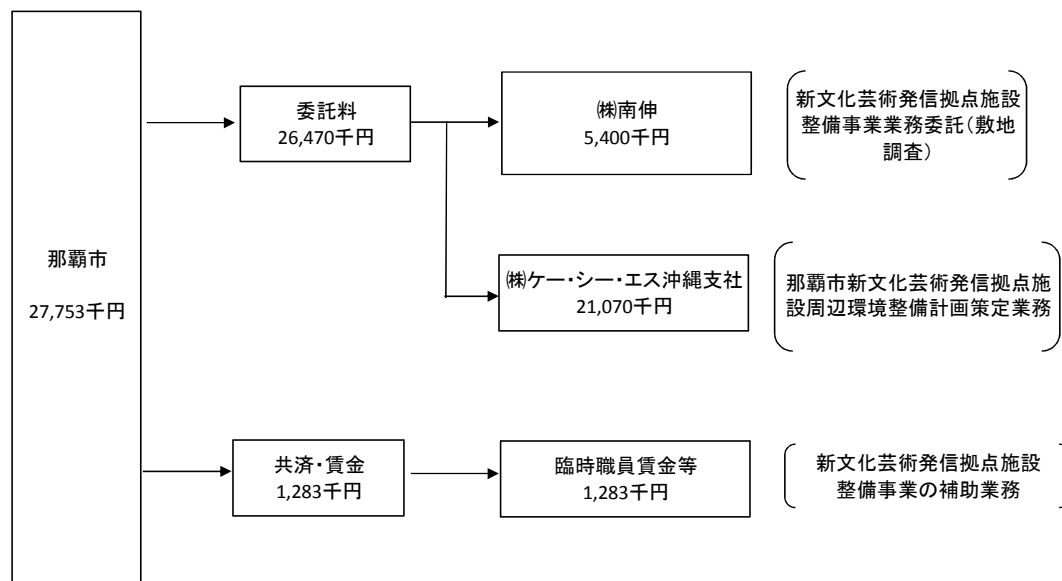
・周辺環境整備計画に示された課題解決に向けた実現化策については、各担当部署で検討を進めるとともに、今後は、沖縄の振興に資する施設の基本設計に取り組む。

・周辺環境へ配慮するとともに、施設の機能が十分に発揮できるように、敷地拡大に向けた補償物件調査業務や補償技術支援業務等を実施する。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
27,753	27,753	22,202	5,551	0



資金の 流れ、 費目・ 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者の選定は、指名競争入札及び公募型のプロポーザル方式で実施しており妥当であったと考えている。 ○予算規模については、概ね執行しており、適正であったと考えている。 ○費目・使途についても、仕様書に則して事業目的を達成しており適正であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	13-6	津波避難ビル建設事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成24~26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
					Ⅲ-10-(2)		
事業内容	地震や津波などの自然災害に強いまちづくりを推進するため、海拔の低い若松市営住宅跡地(那覇市松山2丁目22番1号)に避難困難者のための津波避難ビルを建設する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度繰越	25年度	25年度繰越	26年度	26年度繰越	
	予算の状況	(a)当初予算額	-	59,752	-	2,016,672	-
		(b)予算現額	-	65,172	-	2,016,672	-
		(c)増減額(b-a)	-	5,420	-	0	-
		(d)繰越額	24,327	-	45,732	-	1,234,288
		A. 計(b+d)	24,327	65,172	45,732	2,016,672	1,234,288
	B. 執行済額		24,327	19,440	45,647	627,099	967,094
	うち交付金充当額		19,461	15,552	36,517	501,678	773,676
	次年度繰越額		-	45,732	-	1,234,288	-
	執行率(%) (B/A)		100.0%	29.8%	99.8%	31.1%	78.4%
予算の状況の説明		津波避難ビル建設敷地内に埋没している既存杭の撤去工事に関し、当初想定していなかった特殊な形状をしており、その撤去に不測の日数を要することが判明したことから、工事請負費等に係る1,234,288千円を27年度に繰越した。不用額の主なものについては、工事請負費の執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	津波避難ビルの建設 (建築場所:那覇市松山2-22-1)	目標	()	()	(津波避難ビル建設)	()	
		実績			津波避難ビル建設		
	(※参考 H24・25活動目標) H24:津波避難ビル建設に係る基本計画・基本設計の実施 H25:津波避難ビル建設に係る実施設計の実施	目標	(基本計画・基本設計実施)	(実施設計実施)	()	()	
実績		基本計画・基本設計実施	実施設計実施				
達成状況説明	那覇市西部地域の沿岸沿いを中心とした海拔5m以下の低海拔地域において、大津波襲来時における避難困難者の安全・安心の確保を目的に、地上4階建の津波避難ビルを那覇市松山地域に建設した。当ビルについては、平成28年5月から供用を開始しており、平常時は地域の乳幼児から高齢者まで世代を超えた方々集い、交流を通して地域の絆を紡ぎ、災害時の支え助け合う共助の心を醸成するための施設として活用していく。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(30年度)
	津波避難ビルの建設 (建築場所:那覇市松山2-22-1) 万が一の大津波襲来時に約2,000名の方が避難可能	目標	()	基本計画・基本設計実施	実施設計実施	津波避難ビル建設	()
		実績		基本計画・基本設計実施	実施設計実施	津波避難ビル建設	
	施設利用者数(年間延べ人数)	目標	()	()	()	()	(40,000)
		実績					
	防災訓練等防災イベントの実施回数	目標	()	()	()	()	(5)
		実績					
進捗状況説明	当ビルは、平成28年3月に完成し同年5月から供用を開始しており、大津波襲来時には、最大2,000名を収容することが可能である。平常時には、市の子育て支援、高齢者の介護予防、青少年の交流・居場所づくりに関する事業をそれぞれ実施する。市の事業に参加される地域の皆様が当ビルに集い、そこでの交流を通して地域の絆を紡ぎ、災害時の支え助け合う共助の心を醸成するための施設として活用していく。また、定期的な防災訓練を実施するなどして地域住民の防災意識の高揚を図る。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	沖縄県が平成25年3月に公表した津波浸水予測における、本市の西海岸沿いの海拔5m以下の低海拔地域は、想定される津波の最大浸水深が2以上～5m未満の分類であるとの結果を受けて、大津波襲来時における避難困難者の生命・身体 の安全確保を図るとともに、市民の防災意識の高揚を図り安全で安心な災害に強いまちづくりを推進することを目的とし、那覇市松山地域に津波避難ビルを建設した。当ビルは、地上4階建となっており大津波襲来時には、3階以上を避難階として最大2,000人を収容することが可能となっており、平成28年5月から供用を開始している。なお、津波避難ビル建設敷地内に埋没している既存杭の撤去工事に 関し、当初想定していなかった特殊な形状をしており、その撤去に不測の日数を要することが判明したこと から、工事請負費等を平成27年度に繰越して事業をを実施した。今後は、災害時に迅速な避難に繋げられるよう、日頃から多くの地域の住民に利用していただくための取り組みを実施していく必要がある。	平成28年5月から供用を開始していることから、本市ホームページ及び広報誌等の広報媒体を活用し、平常時は、市の事業を実施していることを広く市民等へ周知を図る。また、定期的に地域を巻き込んだ防災訓練や防災に関するイベントを実施し、地域住民の防災に対する意識付けを図る。
今後の取り組み方針		
平常時においては、乳幼児、青少年、高齢者といった地域の世代を超えた方を対象とした市の事業を実施することで、当ビルへ地域住民の皆様にお集まりいただき、そこでの顔を合わせた交流通して、災害時に互いに声を掛け合い、助け合えるような関係性を構築していく。また、大津波襲来時には一人でも多くの命を助けられるよう、当ビルを活用して1階に入居するスーパー、地域の自治会、保育所、中学校等の関係機関と連携した防災訓練等を定期的 に実施し、地域住民の防災意識の高揚を図り災害に強いまちづくりを推進する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)		
那覇市 1,594,193千円	委託料 11,232千円	有限会社 スキルエンジニアリング (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(建築磁気探査)
	委託料 28,944千円	有限会社 三和総合設計 交付金対象:28,944千円 交付金対象外:3,456千 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(工事監理)
	工事請負費 1,553,922千円	沖縄工・大晋建設・スタプランニング共同企業体 1,522,152千円 交付金対象:1,251,401千円 交付金対象外:270,751千円 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(建築)
		日進電気土木・山川電気・シンテック共同企業体 137,446千円 交付金対象:122,272千円 交付金対象外:15,174千円 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(電気)
		沖縄バナソニック特機・沖縄エンジニア共同企業体 100,797千円 交付金対象:89,709千円 交付金対象外:11,088千円 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(衛生)
		泉水設備・沖縄ボイラエンジニアリング共同企業体 74,125千円 交付金対象:65,971千円 交付金対象外:8,154千円 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(空調)
		株式会社 沖縄特電 26,846千円 交付金対象:24,569千円 交付金対象外:2,277千円 (仮称)那覇市津波避難ビル建設工事業務委託(昇降機)
	使用料 95千円	タクシー使用料
評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○委託は指名競争入札及び随意契約、工事の業者選定は一般競争及び指名競争入札によりそれぞれ実施しており、妥当であったと考えている。なお、工事監理業務については、当事業の実施設計から携わり当該現場に対する十分な情報を持ち、設計内容に精通している業者と随意契約を締結したものである。
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託・工事共に積算基準等に基づき積算を行っており事業内容に見合った適正な規模であった。
	○ 受益者との負担関係は妥当であるか。	○1階にはスーパーが入居することからその工事費については交付金の対象外経費として適正に処理した。
	○ 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	14-1	地下壕対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	建設管理部 建設企画課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
						Ⅲ-12	
事業内容	沖縄の抱える様々な特殊事情(地下壕)に対応するため、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を目的とした壕の埋め戻し等を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	26年度(繰越)
		(a)当初予算額	5,000	30,288	—	30,200	—
		(b)予算現額	5,000	21,468	—	17,022	—
		(c)増減額(b-a)	0	▲8,820	—	▲13,178	—
		(d)繰越額	—	—	11,755	—	9,811
		A.計(b+d)	5,000	21,468	11,755	17,022	9,811
		B.執行済額	4,200	7,900	11,755	7,211	4,320
		うち交付金充当額	3,360	6,320	9,404	5,769	3,456
		次年度繰越額	—	11,755	—	9,811	—
		執行率(%) (B/A)	84.0%	36.8%	100.0%	42.4%	44%
	予算の状況の説明	実施を予定していた地下壕対策箇所において、地下壕の規模が小さいことに加え、対策工法の見直しにより減額となる見込みとなり、13,178千円を2月補正で減額した。また、工事着手箇所において、地権者及び土地利用者との調整に時間を要し、計画変更により不測の時間を要す結果となったことに伴い、工事発注に遅れが生じ、年度内の完了が困難となった。工事において、平成27年2月に指名競争入札を実施したが、不調となったため、工事費に係る9,811千円を繰越し、再入札を行った。執行率が44%となった要因としては、埋め戻し予定の地下壕1箇所が地主等の希望により埋め戻しを行わなかったためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	地下壕の埋戻等の実施:4箇所	目 標	(危険度判定及び優先度等提案)	(地下壕の埋戻等の実施:6箇所)	(地下壕の埋戻等の実施:4箇所)	()	
		実 績	危険度判定及び優先度等提案	地下壕の埋戻等の実施:6箇所	地下壕の埋戻等の実施:3箇所		
	達成状況説明	地下壕対策予定箇所において、対策調査測量設計及び埋戻工事を実施した。計画では4箇所の予定であったが、3箇所の実施となった。実績が3箇所となった原因として、当初予定していた1箇所の地下壕において、工事発注直前に地主等より埋め戻しを行ってほしくないとの希望があり、埋め戻しを行わなかったからである。 (対策の内容) 首里平良町1箇所→立ち入り防止柵設置 山下町 1箇所→防護柵設置 宇栄原 1箇所→空隙充填					
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	地下壕の危険度軽減を図り(4箇所)、全体箇所数に対する実施率(危険度軽減率)を6%進捗させる。	目 標	()	(4箇所6%)	()	()	()
		実 績		3箇所5%			
	進捗状況説明	那覇市内に現存する地下壕において、平成27年10月末で地下壕3箇所について対策を完了し、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を図ることができた(全体60箇所に対する実施率5%)。成果目標の進捗率6%に対して、実績進捗率が5%となった原因としては、工事直前に地主等より埋め戻しを行ってほしくないとの希望があり、4箇所中3箇所のみの埋め戻しとなったためである。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・壕の埋戻し工事について、土地所有者の同意や自治会等の関係機関との調整に不測の時間を要する。 ・市街地開発や民間工事等により、全体調査時から壕の全容が変化(壕の一部消失等)していることがあるため、状況変化への対応が必要である。	・土地所有者や自治会等へのヒアリングを行い、土地所有者及び関係権利者の意向を踏まえた対策工(拝所の機能を損なわないような対策等)を選定できるよう調整を進めることにより、事業の推進を図る。 ・壕の周辺住民等へのヒアリングや関係者・関係部署との連携を強化することにより、より確実な状況把握に努める。 ・地下壕を埋め戻し等を行う際には、地主等に危険度軽減について説明して実施している。それでも、埋め戻し等を希望されない地主等には、危険性を十分理解して地下壕を使用するよう説明する。
今後の取り組み方針		
平成24年度に那覇市内60箇所の地下壕における基礎調査を行い、平成25年度から対策工事を実施している。今後も壕に関する関係者、関係部署と連携を図り、那覇市内における危険性の高い地下壕について順次、埋戻し等の対策を実施し、陥没、落盤等による建築物等の危険度軽減を図る。 平成28年度においては、地下壕全体の実態調査を実施。直前での埋め戻し中止がないよう、実態調査にて地主等への意向確認を行い、効率的な事業推進を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
11,532	11,532	9,225	2,307	0

那覇市
11,532千円

使用料及び賃借料
23千円

那覇市
23千円

タクシー使用料

委託費
7,189千円

(株)向陽技研
7,189千円

平成26年度地下壕対策調査測量設計業務委託
平成26年度地下壕対策調査測量設計業務委託
(宇田原地内)

工事請負費
4,320千円

(有)ヤヨイ沖縄
4,320千円

平成27年度地下壕対策埋戻し工事(その1)

資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者は競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、不用額は入札残等であり、適正であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであり適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	那覇市						
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	14-3	亜熱帯庭園都市形成推進調査(道路)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-イ	
担当部課名	都市計画部 都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	歩いて暮らせる環境づくりの推進 Ⅲ-11-(2)	
事業内容	戦後無秩序に居住化されてきた特殊な地域も含め、道路基盤等の整備の遅れている地域に、新たなまちづくりと連動させた道路の整備を推進すべく基礎調査を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,000	10,000	3,000		
		(b)予算現額	5,000	10,000	3,000		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	—			2,808	
	A. 計(b+d)		5,000	10,000	3,000	2,808	
	B. 執行済額		5,000	9,797	0	2,808	
	うち交付金充当額		4,000	7,837	0	2,246	
	次年度繰越額				2,808		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.0%	0.0%	100.0%	
予算の状況の説明		長期未着手道路の取り扱いについての県との調整及び地域住民との意見交換に時間を要し、年度内に業務を完了することが見込めないことから、平成27年度に繰り越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	まちづくり基礎調査の委託発注		目 標 (実施)	(実施)	(実施 1件)	()	
			実 績	実施	実施	実施 1件	
達成 状 況 説 明	長期未着手道路(小禄名嘉地線)について、現況に見合う道路及び沿線の土地利用の増進を図るため、那覇市都市計画マスタープランにおいて位置づけられた道路の基礎調査を予定どおり発注した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
			目 標 (実施)	(実施)	(実施)	(実施)	()
	まちづくり基礎調査についてとりまとめる。		実 績	実施	実施	実施	
	進捗 状 況 説 明	長期未着手道路(小禄名嘉地線)について、現況調査等を行い基礎調査をとりまとめた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・道路の基盤整備が追いつかないまま、密集市街地が形成され、狭あい道路や行き止まり道路なども多く、防災上の課題がある。 ・道路が狭く歩行者の安全性が確保されておらず、生活環境上の問題がある。 ・長期間整備を行っていないことから、権利者に対して土地利用の制限をかけている状況も見受けられる。 ・長期未着手道路の変更による検討を行った結果、道路構造令等による見直しが生じている。	・安全で快適な歩行者空間を確保するため、狭あいな道路を拡幅し地域の基盤改善を図る。 ・長期間制限をかけてきた権利者を含め、地域住民の合意形成を図る。 ・当初都市計画時には、道路構造令が施行されていなかったことから、道路構造令との整合を図る。
今後の取り組み方針		
長期未着手道路について、現況調査及び、歴史文化遺産等の整理を行い、地域の住民のコンセンサスを得ながら、生活環境の改善を図るため、都市計画決定に向けた予備設計を実施し、都市計画道路の変更図書を作成する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
那覇市 4,037千円 委託料 2,808千円 → (株)南伸 2,808千円 〔まちづくり基礎調査業務委託(小禄名嘉地線)〕				
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
	2,808	2,808	2,246	562
				交付対象 外経費
				0
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により、事業を実施したため契約業者・契約金額は妥当であったと考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		